

製品名: SPT4H ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18224**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	12kDa

抗原情報

遺伝子名	SUPT4H1 SPT4H SUPT4H
別名	
遺伝子 ID	6827.0
SwissProt ID	P63272
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 40-120

背景

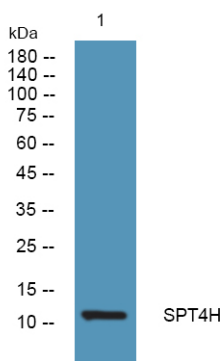
この遺伝子は、RNA ポリメラーゼ II による mRNA のプロセッシングと転写伸長を制御する DRB (5,6-ジクロロ-1-ベータ-d-リボフラノシルベンズイミダゾール) 感受性誘導因子 (DSIF) 複合体の小サブユニットをコードしています。コードされているタンパク質は

核に局在し、大サブユニット (SUPT5H) と相互作用して DSIF 複合体を形成します。関連疑似遺伝子は 2 番染色体と 12 番染色体上に同定されています。この遺伝子には選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2012 年 11 月]機能: RNA ポリメラーゼ II による mRNA のプロセッシングと転写伸長を制御する DRB 感受性誘導因子複合体 (DSIF 複合体) の構成要素。DSIF は、RNGTT/CAP1A の mRNA グアニリルトランスフェラーゼ活性を刺激することで、mRNA キャッピングを正に制御します。DSIF は負の伸長因子複合体 (NELF 複合体) と協調して作用し、プロモーター近位の部位での転写の一時停止を促進します。転写の一時停止により、伸長能のある RNA ポリメラーゼ II 複合体の組み立てが促進される可能性があります。DSIF と NELF は、転写伸長因子 TFIIIS/S-II を阻害することで一時停止を促進します。TFIIIS/S-II は転写一時停止部位で RNA ポリメラーゼ II に結合し、この酵素の弱い固有のヌクレアーゼ活性を刺激します。RNA ポリメラーゼ II によってブロックされた転写産物の切断により、新しい 3' 末端からの転写の再開が促進され、自然な一時停止部位を介した転写の繰り返し試行が可能になります。DSIF は転写伸長を正に制御することもでき、HIV-1 核転写活性化因子 Tat による転写伸長の効率的な活性化に必要です。DSIF は、HIV-1 LTR 由来の転写産物の転写一時停止を抑制し、終結配列における HIV-1 転写産物の未熟な放出をブロックします。類似性:SPT4 ファミリーに属します。サブユニット:SUPT5H と相互作用して DSIF を形成します。DSIF は、CDK9 およびサイクリン T (CCNT1 または CCNT2) から構成される正の転写伸長因子 b 複合体 (P-TEFb 複合体) と相互作用します。DSIF は RNA ポリメラーゼ II と相互作用し、この相互作用は P-TEFb による POLR2A の C 末端ドメイン (CTD) のリン酸化によって低下します。DSIF は、WHSC2/NELFA、COBRA1/NELFB、TH1L/NELFD、および RDBP/NELFE から構成される NELF 複合体とも相互作用し、この相互作用は DSIF が RNA ポリメラーゼ II に事前に結合した後に発生します。DSIF は HRMT1L2/PRMT1、HTATSF1/TATSF1、RNGTT/CAP1A、SKB1/PRMT5、SUPT6H とともに相互作用し、PIN1 とともに相互作用することができます。組織特異性: 広く発現しています。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; ポリメラーゼ関連因子; ポリメラーゼ II 転写; 伸長因子; その他の因子

画像データ



K562 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、SPT4H ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩